

青森県南部方言における「ツキヤ」「ベ」について

大宮 舞

(欧米第一課程 英語専攻)

キーワード：青森県南部方言，文末詞，接続詞，確認要求

0. はじめに

青森県南部地方では、接続詞・文末詞として「ツキヤ」が、文末詞として「ベ」という形式が使用される。以下にその例を示す。

- (1) アノヒトウメボシキライダツキヤ。(あの人梅干しが嫌いじゃん) (筆者作例)
 (2) ウチノイモウトサアッタゴドアルベ。(私の妹に会ったことあるでしょう) (筆者作例)

「ツキヤ」「ベ」はそれぞれ、古語の過去の助動詞「けり」、推量の助動詞「べし」に由来する。卒業論文では、青森県南部方言における「ツキヤ」と「ベ」のそれぞれにどのような用法があるのかを明らかにし、その後2つに共通する確認要求用法がどのように使い分けられているのかを確認した。本稿では「ツキヤ」「ベ」の2つに共通する確認要求用法の使い分けについて述べる。なお、筆者は青森県南部地方の生え抜きの話者であり、内省に従って考察を行う部分もある。筆者では方言部分をカタカナで記す。本文中の例文番号、共通語訳、下線は特に断りのない限り筆者によるものである。

1. 青森県南部方言

青森県の方言について、此島(1968)を以下に要約する。南部方言が話されている地域を右の地図に示す。

青森県は、中央に南北に奥羽山脈が走っており、東西2つの地方にはっきりと区分される。西側が津軽地方、東側が南部地方で、封建時代に津軽藩、南部藩に分かれてそれぞれ独自の生活を営んだため、言語の差もはっきりしている。2つの地方で話される方言をそれぞれ「津軽弁」「南部弁」と呼ぶ。南部弁は、津軽弁と比べてその内部が複雑に分かれている。南部地方は三戸郡・上北郡・下北郡の各地域群で多少の差がある。特に下北郡はかなりの異色があり、狭義の南部弁からはみ出る場合がある。

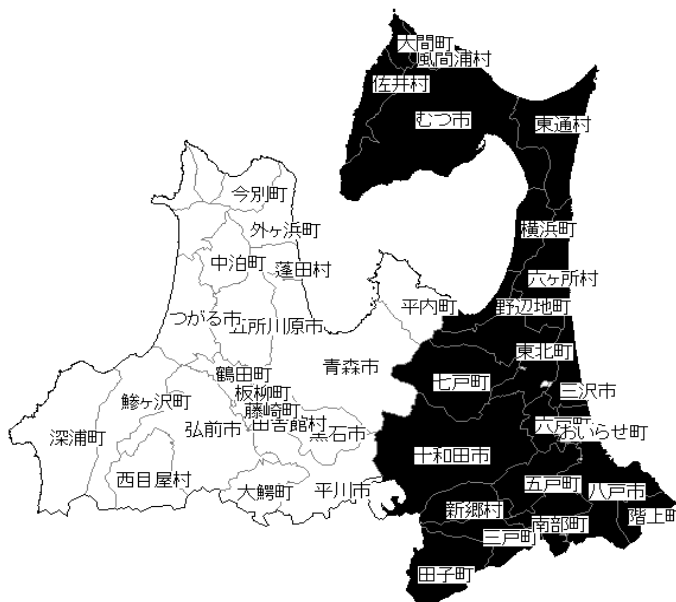


図1: 南部方言が話されている地域
(着色は筆者による)

(此島 1968: 19-28 要約)

2. 日本標準語における確認要求表現に関する先行研究—三宅(1996)

本稿の確認要求用法の分類は三宅(1996)に従う。三宅(1996)は、日本語標準語における確認要求表現をまとめた研究である。三宅(1996)は確認要求表現を次のように分類している。

表 1: 確認要求の意味分類

用法	意味
確認要求	話し手にとって不確実なことについて、聞き手に確認を求めるもの。
命題確認の要求	命題が真であることの確認を要求するもの。
知識確認の要求	命題によって表される知識(情報)を聞き手が有していることの確認を要求するもの。「潜在的共有知識の活性化」と「認識の同一化要求」に下位分類される。
弱い確認要求	話し手にとっては確実に真である命題を、聞き手も真であると認めるかどうかの確認を求めるもの。
同意要求	確認を求めることよりも、同意や同感を求めることが表されるもの。

(三宅 1996 を元に筆者作成)

この分類を基に、確認要求用法の「ツキヤ」「ベ」の使い分けを明らかにしていく。

3. 調査 1

本調査では、談話録音資料から、「ツキヤ」と「ベ」が用いられている文章を手作業で書き起こし、それらを元に分析・考察を行う。2012年8月～2013年8月に、青森県南部方言話者を対象に談話録音調査を行った。収録にはICレコーダーを使用し、話題は指定せず自由に会話させた。以下にインフォーマントと談話資料の詳細を示す。

表 2: インフォーマント情報(年齢順)

	性別	生年		性別	生年		性別	生年		性別	生年
A	女	1922年	E	女	1961年	I	女	1972年	M	女	1990年
B	女	1930年	F	女	1961年	J	女	1975年	N	女	1990年
C	男	1953年	G	女	1961年	K	男	1975年	O	女	1990年
D	男	1957年	H	男	1971年	L	男	1982年	P	女	1991年

表 3: 談話資料の情報(収録順)

	収録日	参加者	時間		収録日	参加者	時間
1	2012/8/9	A, E, M	54分29秒	6	2013/8/13	M, N	54分21秒
2	2012/9/10	C, D, M	69分40秒	7	2013/8/13	E, F, G	2時間50分02秒
3	2013/7/25/	I, J	38分39秒	8	2013/8/21	H, K, L	29分20秒
4	2013/8/4	M, P	31分19秒	9	2013/8/25	A, B, E	44分55秒
5	2013/8/11	M, N	58分12秒				

インフォーマントには生え抜きの話者を選んだ。なお、話者 M は筆者自身である。筆者は青森県南部町に生まれ、18歳までを同町で過ごした生え抜きの話者であるため、筆者の発話が他の話者を共通語に誘導するとは考えにくい。そのため、同談話を資料として用い

ることに問題はないと考える。ただし、筆者の発話は考察の対象外とする。

卒業論文では、談話資料から「ツキヤ」と「ベ」が用いられている箇所を手作業で抜き出し、それぞれを吉田(2009)、玉懸(1999, 2002)を参考に用法の分類を行った。その後、2つに共通する確認要求用法の分類を行った。本稿では、確認要求用法の分類のみを扱う。

3.1. 確認要求用法の分類

今回の調査では全ての談話を通して確認要求用法は 281 例確認できた。各談話における確認要求用法の出現回数、分類結果を以下の表に示す。

表 4: 確認要求用法の分類(「ツキヤ」の回数/「ベ」の回数)

談話資料	命題確認の要求	知識確認の要求		弱い確認要求	同意要求	左記以外	計
		潜在的共有知識の活性化	認識の同一化要求				
談話 1	0/ 36	1/ 26	0/ 6	0/ 0	2/ 0	0/ 6	3/ 74
談話 2	0/ 7	9/ 11	2/ 4	0/ 0	0/ 0	4/ 4	15/ 26
談話 3	0/ 6	12/ 16	4/ 3	0/ 0	1/ 0	0/ 3	17/ 28
談話 4	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0
談話 5	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0
談話 6	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0
談話 7	0/ 30	19/ 2	0/ 2	0/ 0	4/ 7	1/ 1	24/ 42
談話 8	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 0
談話 9	0/ 12	5/ 12	0/ 2	0/ 0	0/ 0	0/ 21	5/ 47
計	0/ 91	57/ 56	6/ 17	0/ 0	7/ 7	5/ 35	75/ 206

3.1.1. 命題確認の要求用法

(3) I: ライネンカラ イチニチドックダべ? (来年から一日ドックでしょう?)

「ツキヤ」にはこの用法は確認できなかった。筆者自身の内省では「ベ」から「ツキヤ」への置き換えは不自然であり、不可能であると思われる。

3.1.2. 知識確認の要求用法

3.1.2.1. 潜在的共有知識の活性化用法

(4) B: フツウダラ フロダイドイデッテヘンべ?

(普通なら 風呂焚いておいてって言うでしょう?)

この用法は「ツキヤ」「ベ」の区別なく用いられている。また、内省では「ツキヤ」から「べ」、「ベ」から「ツキヤ」の言い換えも共に可能である。

3.1.2.2. 認識の同一化要求用法

(5) D: …サマザマコウ ジャンルガアルべ? ソレダバ ワガツキヤ。

(…様々こう ジャンルがあるでしょう? それなら わかるじゃん)

この用法も、「ツキヤ」「ベ」共に使用できることが確認された。内省では「ツキヤ」か

ら「べ」、「ベ」から「ツキヤ」への言い換えも可能である。

3.1.3. 弱い確認要求用法

この用法では「ツキヤ」「べ」共に確認できなかった。内省で三宅(1996)の例文を方言訳した際に、「ツキヤ」「べ」共に不自然となるため、使用不可能ではないかと考えられる。

3.1.4. 同意要求用法

(6) E: 【梅干しの話題で】ウメーツキヤナ。(おいしいよね)

(6)では「ツキヤ」の後に終助詞「ナ」が後接しているが、この終助詞は特別に同意の意味を表しているわけではなく、終助詞によって「ツキヤ」の用法が変わることはない。

3.1.5. 三宅(1996)の分類に当てはまらない用法

(7) D: オレ、タマニ デンワシテツキヤ。(俺、たまに電話してるじゃん)

談話資料では聞き手が全く認識していない(と話し手も想定できる)ことに関しても確認要求表現が使われていた。(7)は、Dが知り合いに時々電話をしていることを聞き手である筆者に対して説明している。しかし、Dと筆者はこの時初対面であり、Dが知り合いに電話をしているという事実を知る由もない。

4. 調査2

「ツキヤ」「べ」にみられる確認要求用法について、用法の違いを明らかにするためにアンケート調査を行った。インフォーマントは調査1におけるA, B, H, I, J, N, Oである。インフォーマント情報は表2を参照されたい。

調査では主に三宅(1996)から抜き出した12の例文を南部方言に訳してもらった。その後、「ツキヤ」と「べ」はそれぞれ使用可能か、また使用した際の違いを答えてもらった。

4.1. 調査結果

以下の節では、まず調査に用いた例文を挙げ、「ツキヤ」と「べ」を用いた主な方言訳を示す。その後、表で標準語から訳した際に「ツキヤ」と「べ」のどちらを用いたのかを示す。さらに、「ツキヤ」「べ」の使用の違いについての回答から特にその差異について目立った違いが指摘された回答を各例文で1つずつ書き出す。以下、表中において「◎」は「ツキヤ」「べ」共に使用可能な場合にインフォーマントが先に回答したもの、「○」は使用可能であるもの、「×」は使用不可能であるものを指すものとする。

4.1.1. 命題確認の要求用法

[1] 正直言って私の料理ってそんなに期待していなかったでしょ?

→キタイシテイナガッタツキヤ? /キタイシテイナガッタべ?

[2] きみは、資産家に生まれたら一生気楽に生きていける、そう思ってるだろう?

→ソウオモッテルツキヤ? /ソウオモッテルべ?

表 5: 命題確認の要求用法

[1]	ツキヤ	ベ	[2]	ツキヤ	ベ
A	○	◎	A	○	◎
B	○	◎	B	○	◎
H	×	○	H	○	◎
I	○	◎	I	○	◎
J	×	○	J	×	○
N	×	○	N	×	○
O	○	◎	O	○	◎

[1] H: 「ツキヤ」は過去のことを表すのでここでは使えない

[2] H: 「ベ」は同意を求めている感じ。「ツキヤ」はあなたは過去のつきあいから、こんな風に思う習性があることを私は認識しているがどうだい?と聞いている感じ。

ほとんどのインフォーマントが「ベ」「ツキヤ」の両方を使うことができると回答しているが、方言訳の際に、ほとんどの人が「ベ」を先に回答した。「ベ」の方が使用できる範囲が広いと回答するインフォーマントもいることから、命題確認の要求用法においては、「ベ」の方が使用しやすいものであることが分かる。

4.1.2. 知識確認の要求用法

4.1.2.1. 潜在的共有知識の活性化用法

三宅(1996)によると、潜在的共有知識の活性化用法は聞き手の知識を確認することによって、話し手と聞き手が潜在的に共有していると思われる知識を活性化させるものである。

[3] この間、私、東京に帰ったでしょう? →カエッタツキヤ? /カエッタベ?

[4] ほら、こういう広告がいっぱい新聞に載っているでしょう。

→ノッテルツキヤ。 /ノッテルベ。

[5] あそこに郵便ポストが見えるじゃないか。 →ミエルツキヤ。 /ミエルベ。

[6] ほら、ここは日が当たっているだろう。だから変色したんだよ。

→ヒガアダッテルツキヤ。 /ヒガアダッテルベ。

表 6: 潜在的共有知識の活性化用法

[3]	ツキヤ	ベ	[4]	ツキヤ	ベ	[5]	ツキヤ	ベ	[6]	ツキヤ	ベ
A	○	◎	A	◎	○	A	×	○	A	○	◎
B	○	◎	B	◎	○	B	○	◎	B	○	◎
H	◎	○	H	○	◎	H	×	×	H	×	○
I	◎	○	I	○	◎	I	○	◎	I	○	◎
J	◎	○	J	○	◎	J	○	◎	J	○	◎
N	×	○	N	×	○	N	×	○	N	○	◎
O	◎	○	O	○	◎	O	○	◎	O	○	◎

[3] O: 「ツキヤ」は「話し手が東京に帰った」という事を聞き手が忘れていても構わない。「ベ」はその事実を相手も知っていないと使えない。

- [4] J: 「べ」は広告と一緒に見ている感じ。「ツキヤ」は広告は目の前になく、記憶の中からその情報を引き出している感じ。
- [5] I: 「べ」は確認している感じが強い。「ツキヤ」は使えないことはないが、初めて会う人に対しては使わない。
- [6] J: 「べ」だと日が当たっている場所の目の前で話している感じがする。「ツキヤ」は、日が当たっている場所から遠いところで話している感じがする。

[3]では N を除く全ての人「ツキヤ」「べ」のどちらも使用できると回答した。[3]に対するコメントから、「ツキヤ」は「べ」と比べて聞き手の事実の認識度が低くても使えることが分かる。[4]では[3]とは逆に「ツキヤ」よりも「べ」の方が先に回答された。コメントを見てみると「ツキヤ」は過去の助動詞「けり」が変化したものである(吉田 2009: 76)ため、過去の出来事や記憶の中の情報を引き出す際に用いるという使い方が強く残っていると思われる。[5][6]ではほとんどの人が「べ」の方が自然であると回答した。[5]ではポストは目の前にあり、発話時点においてそのポストを認識しているために、過去の出来事を述べたり、記憶の中の情報を引き出したりする際に用いる「ツキヤ」は使えないのではないだろうか。また、[6]に対するコメントから「べ」は目の前で起こっていることに対しても使えるが、「ツキヤ」は目の前で起こっていることに対しては使いづらいことが分かる。

4.1.2.2. 認識の同一化要求用法

三宅(1996)によると、認識の同一化要求用法とは聞き手の知識を確認することによって、聞き手に話し手と同じ認識を持つことを要求するものである。

[7] あんな狭いアパートにお手伝いさんがいるわけないでしょ。

→イルワゲナガツキヤ。/イルワゲナガべ。

[8] そんなのんきなことを言っている場合じゃないだろ。

→イッテルバアイジャネガツキヤ。/イッテルバアイジャナガべ。

表 7: 認識の同一化要求

[7]	ツキヤ	べ	[8]	ツキヤ	べ
A	○	◎	A	○	◎
B	○	◎	B	○	◎
H	×	○	H	×	○
I	○	×	I	×	○
J	◎	○	J	◎	○
N	○	◎	N	○	◎
O	○	◎	O	○	◎

[7] N: 「べ」は何の問題もなく使える。「ツキヤ」も比較的使いやすい。「そんなわけないじゃん」「まさか」といったニュアンスが加わる。

[8] N: 「べ」も「ツキヤ」もそれほど違いはない。「べ」の方がより広い場面で使うことができる。「ツキヤ」はより身近な人に対して使う。強い感じがする。

同じ知識確認の要求用法でも、潜在的共有知識の活性化用法と比べ「ツキヤ」も「ベ」とさほど変わらず使えることがわかった。しかし、「ツキヤ」は[7] [8]どちらの場合も使うことができないと答えるインフォーマントもあり、どの用法においても「ツキヤ」よりも「ベ」の方が使用範囲が広く、普段の会話において使用される頻度も高いことが分かる。

4.1.3. 弱い確認要求用法

[9] 今日はえらい短いスカートは**は**いてるじゃないか。→ハイデルツキヤ。／ハイデルベ。

[10] おっ、**おい**しそうじゃないか。→ウマソウダツキヤ。／ウマソウダベ。

表 8: 弱い確認要求

[9]	ツキヤ	ベ	[10]	ツキヤ	ベ
A	回答なし	回答なし	A	×	×
B	○	×	B	○	◎
H	×	×	H	×	×
I	×	×	I	×	×
J	×	×	J	×	×
N	×	×	N	×	×
O	×	×	O	×	×

[9] J: 「ツキヤ」も「ベ」も使えない。スカートを身につけている本人を目の前にして「ツキヤ」や「ベ」を使うことはできない。

[10] H: 自己の感想、または感嘆の言葉であって、同意を求める「～ベ」も過去の確認である「ツキヤ」も用いることはできない。

これまでも、目の前にあるものに対しては「ツキヤ」は使えないという回答が多かったように、目の前にあり、明らかにその命題が真であるものに対しては「ツキヤ」も「ベ」も使用できないことが分かる。[10]のような自分の感想や感嘆を聞き手に伝える場合にも、その命題が話し手の中で真であることは明らかのため「ツキヤ」も「ベ」も使用できない。

4.1.4. 同意要求用法

[11] チーズの塩気とピーマンの甘さが**す**ごく合うね。

→スゴイアウツキヤ。／スゴイアウベ。

[12] 今にも**降**ってきそうですね。→フッテキソウダツキヤ。／フッテキソウダベ。

表 9: 同意要求用法

[11]	ツキヤ	ベ	[12]	ツキヤ	ベ
A	○	◎	A	◎	○
B	○	◎	B	○	◎
H	×	×	H	×	×
I	×	×	I	×	×
J	×	×	J	○	◎
N	×	×	N	×	×
O	×	×	O	×	×

- [11] H: 目の前にある物に対しては「べ」も「ツキヤ」も使わない。
[12] J: 「べ」は窓側において、聞き手に同意を求めている感じがする。「ツキヤ」の場合には、この会話の前に窓の外を見ていて、会話している時には空が見える状態ではない感じがする。過去の記憶から引き出している感じがする。

この用法でも弱い確認要求用法と同様に「ツキヤ」も「べ」も非常に使いづらいことが分かった。[11]は、話し手の感想に対する同意を求めているものだが、[10]と同様に自分の意見や感想に対しては「ツキヤ」も「べ」も使えないことが分かる。また、[12]についてのコメントから「ツキヤ」はやはり過去に何らかの情報を得ており、その情報に基づいて会話を行っている際に用いられるものであることが分かる。

5. 調査結果のまとめと今後の課題

「ツキヤ」は過去の助動詞「けり」が変化したものであることから、過去の出来事についての話題であったり、記憶の中の情報を引き出したりする際に用いられる。そのため、目の前にある明らかなことに対しては使うことができない。また、「ツキヤ」は聞き手がその事実を認識していない場合でも用いることができ、逆に「べ」は聞き手もその事実を確実に認識していないと使うことができないなど、聞き手の事実の認識度によっても「ツキヤ」と「べ」の使用方法が異なることが分かった。

今回の調査では確認要求用法における「ツキヤ」と「べ」の大まかな違いを明らかにすることができた。しかし、「ツキヤ」と「べ」の使用に関するより詳細な違いについては今後さらに調査する必要があるであろう。インフォーマントごとに「ツキヤ」と「べ」の使用範囲やそのニュアンスに違いが見られることがあり、その回答の違いがどこからくるものであるのかを今後調査する必要がある。

参考文献

此島正年(1968)『青森県の方言』青森：津軽書房/ 玉懸元(1999)「仙台市方言の「べー」の用法」『言語科学論集』3: 37-48./ _____(2002)「仙台市方言の「べー」の用法(2)－「推量」「確認」「確認要求」の用法をめぐって－」『国語学研究』41: 44-55./ 三宅知宏(1996)「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89: 111-122./ 吉田雅昭(2009)「青森県津軽方言地域における文末・接続表現「キヤ」の用法」『文芸研究』167: 76-89.

参考資料

白地図 KenMap <http://www5b.biglobe.ne.jp/t-kamada/CBuilder/kenmap.htm> (2014/2/15)